



里地公園内の炭焼き小屋。1回あたり500～600kgの生木が入り、約150kgほどの炭を産出することが可能である。



里地公園内の里地屋敷に設置されているかまどと五右衛門風呂。薪など自然エネルギーと生活文化を環境学習プログラムにとり入れて効果を上げている。
ここに薪小屋、薪ストーブ等を設置し、新たな展開をはかる。

チップターの導入

竹林伐採等の作業後、もっとも問題となる伐採林、竹材の処理は、一部は木や竹材として使用するが自然エネルギーやたい肥化、活用するためには長いままでは処理が難しい。そのため、里地公園に自走式のウッドチップターを導入し、里地公園ならびに地域での伐採、竹林管理作業の共同機材として整備する。



チップターの性能

最大処理可能径 100mm、処理能力 1.8 立方メートル/時間、エンジン出力 9.9kW

チップターナイフ、シュレッダーナイフの2段式、動力：ガソリン
対象物：竹、枝、カヤ等

チップターの活用例

マルチング

下草刈りをした雑木林や公園等の裸地に細かくチップ化した竹や木材を敷く。雑草の発生抑制、ぬかるみなどの防止、景観改善などに役立つ。

たい肥化(パーク・竹たい肥)

落ち葉・家畜ふん尿などと合わせてたい肥化し、肥料、土壌改良などに活用する。

家畜の敷き料

細かくチップ化して、家畜舎における敷き料として活用し、使用後はたい肥化する。

自然エネルギー化

大きめのチップは、運搬、保管がしやすく、火をつけると早く燃えるため、薪ストーブ、五右衛門風呂、かまどなどの燃料として自然エネルギー活用が容易となる。

このほか、竹や樹種によっては、スモークチップとしての活用も合わせて可能。

炭化活用

炭材として水の浄化、土壌改良、調湿剤などとして活用することが可能。

製品原料化

枕の中材、紙原料等の製品原料としての使用。

法面緑化や遊歩道整備などの主原料として、樹脂等の原料を加えた高度な素材としての活用。

地域戦略 [[3] 地域の資源（個性）の再発見]

事業名	地域資源調査、地域資源マップづくり					
実施場所	立神地区、各地区					
実施主体等	まちづくり情報銀行支店、地区住民、里山クラブどんごろす、宮原好きネット、水川町、保全団体、ボランティア					
事業目的	地域の資源を再確認し、問題や課題の整理を行い、地区住民と外部者が共同で課題解決にあたるための「地域を見つめ直す」作業を、順次行う。これをもとに絵地図の作成、地域づくりや里山保全、里地里山体感ウォーキング等に役立てる。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●立神地区をモデルとして、地域資源調査～立神地区住民および外部ボランティアと一緒に地域を歩き、地域の資源を再確認し、地域資源シート、マップ化する。(H18年5月実施済み) ●立神地区地域戦略づくり～地域資源調査をもとにして、地域戦略を策定、保全活動等の計画を立案。 ●事例の共有化～活動を行い、まちづくり情報銀行などでの情報の共有を行う。 ●候補地区の選定と、地域資源調査の実施、活動の継続。 					
スケジュール	H18.7～9	10～12	1～3	H19	H20	H21以降
	立神地区試行	手法の検証と候補地選定		地域資源調査の順次拡大と継続的实施		
備考	立神地区でのフィールドワークと絵地図の設置					

「地元学」へようこそ

地元学とは、地元を学ぶことです。自分たちが暮らす地域のこと、その歴史や文化、自然環境、産業、生活様式、人々の営みなどについて、自分たちが暮らす地域のことを学び、地域を愛する気持ちを持って地域を良くしていくことです。

里地たんけん隊

地元学は、地域がよくなるための大切な活動です。それは、自分たちが暮らす地域を良くするために、自分たちが暮らす地域のことを学び、地域を愛する気持ちを持って地域を良くしていくことです。

地元学からはじまる環境政策・住民参加の地域づくりは、全国に広がっています

地元学は、地域を学ぶことで、地域を愛する気持ちを持って地域を良くしていくことです。それは、自分たちが暮らす地域を良くするために、自分たちが暮らす地域のことを学び、地域を愛する気持ちを持って地域を良くしていくことです。

地元学は、地域を学ぶことで、地域を愛する気持ちを持って地域を良くしていくことです。それは、自分たちが暮らす地域を良くするために、自分たちが暮らす地域のことを学び、地域を愛する気持ちを持って地域を良くしていくことです。

1 準備

準備は、地域を学ぶための大切な活動です。それは、自分たちが暮らす地域を良くするために、自分たちが暮らす地域のことを学び、地域を愛する気持ちを持って地域を良くしていくことです。

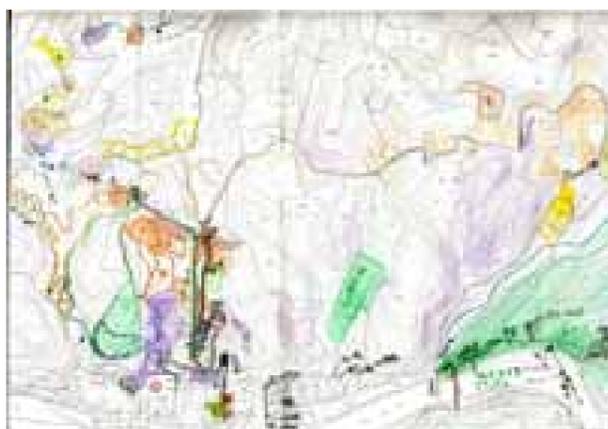
2 現地調査(あるもの探し)

現地調査は、地域を学ぶための大切な活動です。それは、自分たちが暮らす地域を良くするために、自分たちが暮らす地域のことを学び、地域を愛する気持ちを持って地域を良くしていくことです。

3 まとめ

まとめは、地域を学ぶための大切な活動です。それは、自分たちが暮らす地域を良くするために、自分たちが暮らす地域のことを学び、地域を愛する気持ちを持って地域を良くしていくことです。

地域資源調査は、「地元学」手法を活用（里地ネットワークパンフレット）



作成した基礎地図と資源カードを元に、立神地区で行う活動や取り組みについての検討を行った。



立神地区での地域資源調査の主なまとめ

- ・立神地区は、立神峡・里地公園を含む地区であり、観光客が多く訪れる場所となっている。
- ・平成 18 年年 5 月 14 日、15 日、立神地区にて、地区住民、氷川町職員、外部者による地元学手法による地域資源調査を実施した。

【立神地区の特徴】

石積みと石切跡

かつて石切場であった立神地区には当時の石工が健在。石積みの棚田や水路跡が多くある。美しい石垣が草の陰に隠れている。



立神の農業

柑橘類が中心で、夏みかん、晚白柚、キンカンをはじめ、新品種など現在も一部樹種更新が行われている。一方、放棄果樹園も散見される。このほか、野菜畑（ネギ、ショウガ、ジャガイモ、根菜、豆類、果菜、葉菜類等）、ナシ、クリ、茶、水田、苗木などが見られる。一部、養豚、養鹿もある。風の強い尾根づたいには伝統的にヒノキの防風林が整備されていた。現在もヒノキ林がある場所も多い。



左 みかん畑 右 ひのきの防風林

ため池と水源

雨水利用の農業ため池が多くあり、ひとつひとつの口径は小さいが深さがあり、カエル、イモリ、ゲンゴロウ、アメンボ、クモ、トンボなど水辺の生物の生息環境となっている。立神集落にはいくつかの自然水源があり、現在も水が湧いている。かつては住居のあった近くで現在は畑の近くにあり整備すれば美しい水場になる。



雑木林の管理

高齢化、人手不足などの理由によって、集落の雑木林等の管理が追いつかず、3分の1程度がモウソウチクの侵食を受けている。同様の理由でツル・ツタも繁茂している。主に竹の管理が集落の景観、里地里山保全の重要課題になっている。タケノコの活用などの希望もある。



神仏と散策道

山の神、菅原神社、熊野座神社、立神（上宮 あなんどさん）中宮（なかんどさん）、立神五輪塔毘沙門天、立神六地藏、五百羅漢といった神社仏閣等が立神地区にそろい、今も大切に扱われている。五百羅漢の上には展望台が用意され、立神峡の絶壁の上で照葉樹林から遠くの八代海までが見通せる。



集落の山道、農道

地区の山道、農道は、新たに整備され、現在活用されている自動車が通行可能な道と、それ以前に使用されていた車が通ることのできない旧道（古道）がある。旧道は、集落地点で民家敷地を通るところもあり、部分的に使用されている。旧道の周辺は古木などが立ち並び、竹の管理をはじめとした整備を行えば散策道となる。農道周辺には、柿の大木、クワガタムシなどの集まるクヌギなどもあり、定期的に草刈りをしてあるため、ノイチゴが多く自生している。



左 旧道の風景、夏でも涼しい。右 五百羅漢の展望台。

立神峡公園に連なる立神地区の吊り橋（竜神峡）



立神地区での地域資源調査後に作成した「地域戦略立神地区版」

- ・立神地区での地域資源調査を元に、区長、まちづくり銀行支店長、住民、外部ボランティアをまじえてモデル事業地域戦略立神地区版を作成した。
- ・立神地区版地域戦略での里地里山保全再生活動を行い、全体の地域戦略に検証、反映する。

1 みんなで竹を切ってしまう

地区の人たちと、地区外のボランティアで増えすぎたモウソウチクを管理するための伐採と、切った竹のチップ化の作業を定期的に行い、美しい里地里山を取り戻します。できたチップは、砂利のかわりに広場に敷いたりして有効活用します。

第一回目は、8月19日、20日

予定参加人数 30名

場所 熊の座神社奥の竹林、旧道ほか。

作業 竹の除伐、間伐、チップ化

新たに必要の道具 チッパー、チェーンソー、燃料

2 立神の絵地図(MAP)をつくって看板を立てよう

立神峡公園を含む立神地区には、豊かな自然と景観、多様な生き物や生活文化があります。観光地、ウォーキングコースに近いので、集落に迷い込む人や車もあります。観光客と地区住民が安心して過ごせる空間づくりと、立神の良さを知ってもらうために立神の絵地図(MAP)づくりを行います。

3 果樹のミニオーナー制をやってみよう

果樹が主要な農業であり、柑橘類の販売継続が里地里山の保全と密接に関わっています。立神フレッシュ村での販売だけでなく、インターネットを活用した予約販売のミニオーナー制度を試行します。

4 タケノコツアーを行おう

来年5月には、整備した竹林でのタケノコ取りツアーを行い、竹林整備(秋)と合わせた恒例行事にしていけるよう試行します。

5 有用物の活用を検討しよう

古道の整備、イチョウの葉など民間療法で使う有用植物の活用を検討し、活性化につなげます。

上記計画の元に、平成18年度～19年度にかけて活動を行い、再評価、検討します。

地域戦略 [[4] 体験・環境学習・交流活動の推進]

事業名	里地公園環境教育プログラムと里地里山体感ウォーキング					
実施場所	JR有佐駅～宮原地区～水川流域～立神峡公園(里地公園)					
実施主体等	立神峡公園管理組合 里山クラブどんごろす まちづくり株式会社 JR九州 水川町 保全団体等					
事業目的	里地公園の里山暮らしの学校をはじめとする環境教育プログラムを軸に、里地里山保全再生モデル事業地域戦略の事業のモデルや試行を行う。また、事業の普及啓発と地域への拡大、パッケージ化を行う。 JR九州が「駅長おすすめ」として行うウォーキング「有佐コース」と連動し、里地里山体感ウォーク・里山フェスタを実施。気軽な保全活動と里地里山体感を組み入れ、里地里山保全の普及啓発とボランティアの拡大を行う。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●薪炭等の自然エネルギー活用モデル。薪ストーブ、石釜での調理など、従来の薪炭利用、炭焼きなどに加え新たな活用モデルづくり。 ●竹ドームづくりとイベントの企画・運営～まちづくり株式会社を中心となり、水川流域にイベント会場を設置(竹ドームで休憩所、イベント開催等)。 ●里山フェスタを拡充し、里山管理体験など、環境学習メニューを導入。 ●JR九州ウォーキング有佐コースチラシに、里山体感メニューの掲載協力。 ●商品の販売等をコースに沿って行う。 ●竹ドームの普及啓発。 ●田んぼの学校、保全活動等での環境学習プログラムのパッケージ化と普及啓発。(継続) 					
スケジュール	H18.7～9	10～12	1～3	H19	H20	H21以降
	里地里山体感ウォーキング試行			環境学習プログラムの継続 水川町各地区への普及啓発		
備考	環境学習プログラムの継続、竹ドーム普及啓発、自然エネルギーモデル等			地域資源調査、絵マップづくり 竹ドームの普及啓発 里山管理体験プログラムの拡充 里地里山体感ウォーキングの継続		
	里地公園全体の取り組みが評価され、里山クラブどんごろすが代表する形で、平成17年度環境省「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受けている。					

里地公園と環境教育プログラム

旧宮原町は、環境省の「里地等環境基本計画総合推進モデル事業」の指定を受け、「宮原町里地等環境基本計画総合推進モデル事業実施計画」に基づき、里地公園を整備した。

「里地等環境基本計画総合推進モデル事業」は、人と自然との接点である里地を中心とする地域において、自然の回復・維持や湧水の保全、環境学習などの環境の保全とその適正な利用を目的とする複数の事業を、地域住民等の参加を得て総合的・計画的に展開する事業として位置づけられ、立神峡の里地公園は日本ではじめて里地をテーマにした環境学習拠点として整備されている。

同時に、地域住民と地域外のボランティアによる環境学習プログラム実践団体として「里山クラブどんごろす」が結成され、里地公園および、立神峡公園を管理する立神峡公園管理組合とともに環境学習プログラムを作成、実践してきた。下図は、計画時の里地公園計画図と、整備以前の状況図



立神峡里地公園【環境教育事業】 平成18年度年間計画

主催事業		共催・協働		委託		
里山暮らしの学校						
田んぼの学校 & 里山クッキング & 里山林保全						
A. 大人田んぼの学校	里山クッキング & 里山林保全 & ボランティア公園整備					
B. 親子里山田んぼの学校						
4月	春の田んぼ観察 & 説明会	たけのこほりと 筍クッキング		竹林手入れ	【学童子ども教室】田んぼの学校(年間14回)	4月
5月	田おこし しろかき	ジャム作り		竹林手入れ	【種山小5年】田んぼの学校(年間8回)	5月
6月	田植え	梅ドリンク			【氷川町教委宿泊通学】 宮小・竜東	6月
7月	田の草取り 田の草取り	ソーメン流し			【どんごろす】 里山保全	7月
8月	(田の草取り)				【どんごろす】 夏野菜の紙すき	8月
9月	かかしづくり			竹林整備		9月
10月	稲刈り 脱穀		石窯 ドーム	竹林整備	【どんごろす】 観月会	10月
11月		26 里山フェスタ	石窯 作業小屋 ドーム	竹林整備	【どんごろす】 里山フェスタ	11月
12月			作業小屋 まきストーブ	つる切り		12月
1月			里山生活体験 堆肥づくり	落ち葉かき		1月
2月			森林観察会 & 炭焼き	森林整備作業	【どんごろす】 炭焼き	2月
3月						3月

【その他】TMO・観光物産協会イベント等での協力



「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰

自然環境の保全に関し、顕著な功績があった方を表彰し、これを讃えるとともに、自然環境の保全について国民の認識を深めることを目的に、平成11年度より毎年表彰を行っています。
平成18年度は、42件が選定され、里山クラブどんごろすは、「里山づくりの伝統と知恵の継承を目指して、竹林整備、炭焼き等を行うとともに、竹細工等に取り組み、資源の循環利用を図りながら環境教育を実施するなど、里地里山の保全に貢献」したとして、選定されています。4月28日に新宿御苑100周年記念式典にて表彰式が執り行われ、小泉純一郎内閣総理大臣、小池百合子環境大臣による表彰が行われました。

里地里山体感ウォーキング

- ・JR九州が「駅長おすすめ」として行うウォーキング「有佐コース」と連動し、里地里山体感ウォーク・里山フェスタを実施。気軽な保全活動と里地里山体験を組み入れ、里地里山保全の普及啓発とボランティアの拡大を行う。
- ・里地公園では、里山フェスタで体験型のイベントを構築。保全活動体験、自然観察、里地里山の食材と料理など。
- ・コースとなる氷川流域に、竹ドームによる休憩所、イベントスペースなどを設置し、竹の新たな活用方法を紹介する。
- ・氷川流域のコースとなる地区に絵地図による地域案内で里地里山の保全活動や魅力について紹介する。



ウォーキングコース例

地域戦略 [実施と点検・フォローアップ]

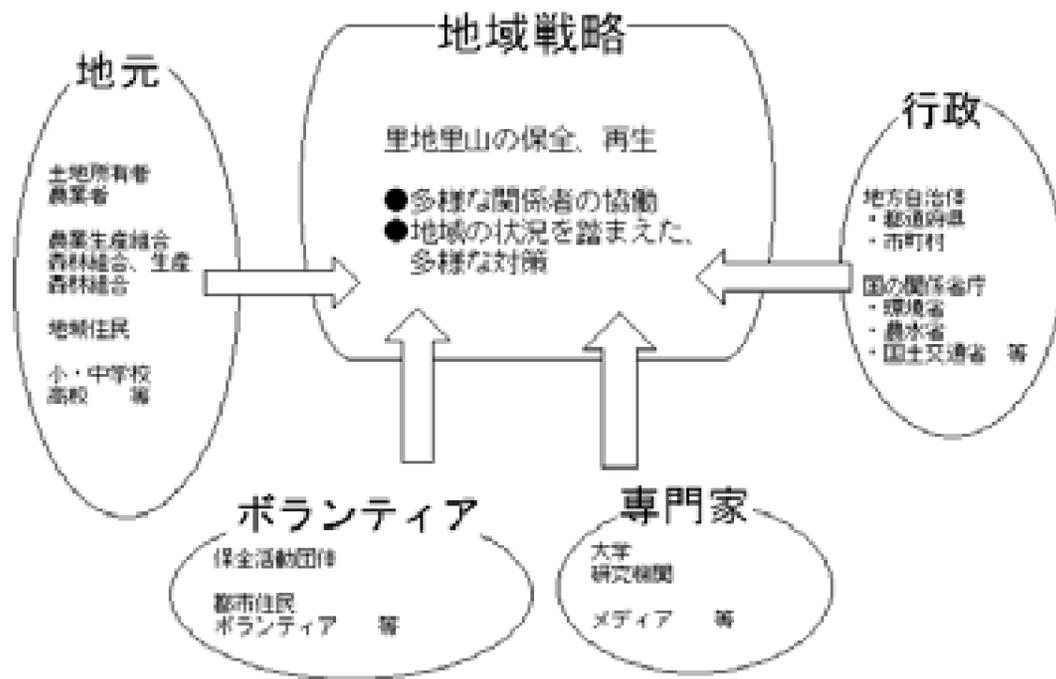
地域戦略の実施

地域戦略の実施は、「多様な関係者による協働、地元との社会的合意形成」を基本的な原則として進めます。

地域戦略にかかる活動について、農業者及び土地所有者、里地里山保全活動団体、住民、都市住民、農業協同組合及び森林組合等の事業者団体、さらに、環境、農業、林業等に関する省庁、県、市が連携して取り組みます。

また、里地里山に手を加えるに当たっては、土地所有者や農業者、近隣の住民などが主体となって、話し合い、社会的な合意を形成して取り組んでいくこととします。

地域戦略のモデルとして、立神峡里地公園と立神峡公園を含む立神地区で先行して事業を行い、その実施と点検・フォローアップを通じて、地域戦略の見直し、活動の拡大等を行います。



点検とフォローアップ

地域戦略の実施状況を点検し、課題の解決に向けて検討するため、少なくとも年1回、里地里山保全再生モデル事業懇談会を開催します。実施状況によっては、地域戦略の見直し、改正も行います。

